



R5年5月1日号
放射線タウン情報

2023. 5. 1 発行 No.37

【編集発行】

南相馬市健康づくり課

☎0244-44-2121

市では、放射線による健康影響に不安を持たれている市民等に、放射線量等を確認することで、不安軽減や健康管理につなげていただきたいと考え、追加外部被ばく量を調べるガラスバッジの貸与を行っています。

また、同様に、ホールボディカウンターによる内部被ばく検診を、18歳以下で2回、19歳以上で1回という形で検査申込みを受け付け、実施しています。

○ガラスバッジは、福島第一原子力発電所事故等の影響による人工の放射性物質によって追加で受ける外部被ばく量を知ることが出来ます。本市が測定する「追加外部被ばく量」は、原発事故前の自然放射線量を差し引いた被ばく量として、結果をお知らせしています。



○ホールボディカウンターは、体に取り込んだ放射性物質どの程度であるのかを測定する装置です。放射性セシウム等のγ(ガンマ)線を出す放射性核種を測定することができます。

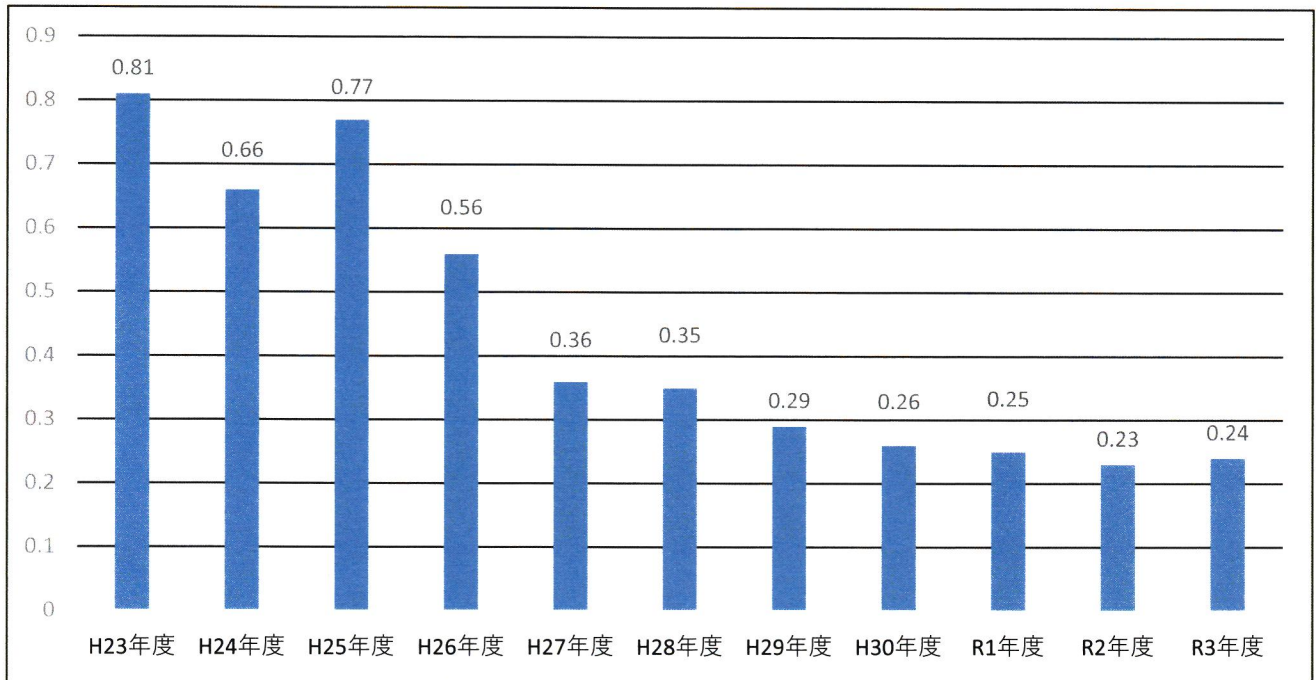


さて、福島第一原子力発電所事故から12年が経ち、これらの検査等の結果はどうなっているか、経年変化を見てみましょう。

追加外部被ばく量と内部被ばく量の
経年変化を見てみませんか？

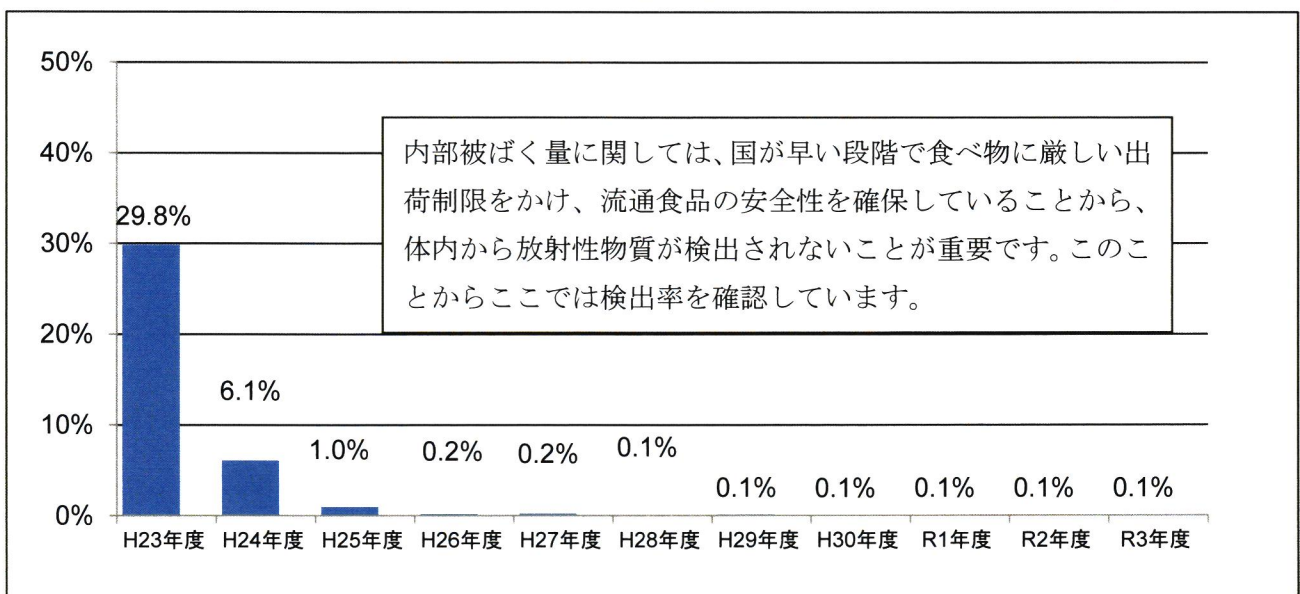
ガラスバッジによる年間利用者（全体）の推定追加外部被ばく量（平均）の経年変化

mSv/年



※H25年度では高い値を示す結果となっていますが、測定者の一部の方の着用方法が不適切であったため、一時的に高くなったことが分かっております。その後の数値は右肩下がりで低い値で落ち着いている状況です。

ホールボディカウンターによる放射性セシウム検出率の経年変化



内部被ばく量について、平成28年度以降の検出率は0.1%となっています。なお、検出された方の原因は、未測定の子葉やイノシシ肉などを食べたことが挙げられます。

いかがでしょうか？近年の追加外部被ばく・内部被ばく量は、日常生活の中において、低い値が続いており、健康に影響が及ぶ測定結果となった方はいませんでした。このことから、必要以上に放射線被ばくによる健康影響を気にすることなく、日常生活を送ることができる環境にあると考えます。

※ガラスバッジの貸与やホールボディカウンターの測定は費用負担なしで実施しておりますので、希望される市民等の方は健康づくり課までお問合せください。